

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

1 徳・知・体の調和のとれた教育の推進

① 豊かな心をはぐむ教育の推進

<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○保護者、児童とも9割近くが一人ひとりを大切にしたい指導や対応ができていますと回答しているが、引き続き、子どもに寄り添った指導を続けるとともに、さらなる指導の充実を努める必要がある。</p>	<p>2 友達への思いやり</p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○児童は8割近くの人が友達と仲良く過ごしているという満足感を持っている。これは他の項目に比べても高い比率である。しかし、そう思わないと答えている児童もいるので、子どもの訴えに耳を傾けて良好な友達関係が結べるよう手助けしていく必要がある。</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○保護者の95%、教職員の100%が心の教育の充実に努めていると思っている。全校あげた授業参観や親子道徳の実践が功を奏している。教職員は全員が道徳教育の重要性を感じ力を入れている。そう思わない5%の保護者にも子どもの姿で伝えられるよう、道徳教育の充実を継続していく必要がある。</p>
---	---	---

② 確かな学力を育む教育の推進

<p>4 意欲的な学習態度</p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○教職員は全員が意欲的と感じているのだが、意欲的でないと思っている児童、保護者は昨年よりわずかに増えている。自分たちの頑張りに自信を持てるよう、課題提示、振り返りの方法の充実をさらに図り、意欲的に取り組めるようにする必要がある。</p>	<p>5 授業力向上</p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○保護者、児童、教職員の多くが授業力向上に対して評価している。しかし、児童の中にそう思わないとの回答もあるので、さらに、日ごろの授業に対して工夫を凝らしていく必要がある。分かる授業を心がけ、持続可能な社会を創るために、主体的に考える児童の育成を目指していく。</p>	<p>6 ICT活用</p> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○保護者、児童、教職員の多くが、タブレット端末を活用していると感じている。しかし、保護者、児童の中に活用できていないと感じる回答もあるので、更なる活用を目指して指導法の工夫改善を図る必要がある。</p>
---	---	---

③ 健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

保護者
児童
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

○保護者・児童・教職員の約2割が「健康づくり」に気をつけた生活が十分でないと感じている。食育や保健指導を行い、休み時間の外遊びを増やすなどの工夫が必要である。また、家庭との連携を図りながら、健康づくりに取り組む必要がある。

2 子ども一人ひとりを大切にする教育の推進

① いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<p>8 児童生徒理解</p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○わずかだが、保護者や児童に(2)や(1)の意見がみられる。アンケートや教育相談を活用しながら、子どもの現状をしっかりと把握した上で、これからも寄り添った指導を徹底していく必要がある。</p>	<p>9 いじめや問題への対応</p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○約90パーセントの児童が、学校は問題解決に努めていると感じているが、約10パーセントの児童はそう感じていない。問題が起こったときにスピード感をもって情報共有を行い、組織的対応を行うことで問題解決に努めていく必要がある。</p>
---	--

② 特別支援教育の推進

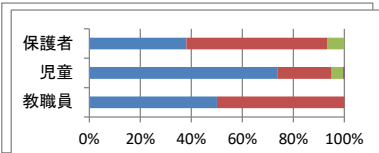
<p>10 学校の支援体制</p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○月2回の児童理解朝会や、毎月の特別支援委員会を開いて支援を必要とする児童の共通理解を図っているが、さらに効果的な対応を行うため、委員会等のあり方を検討していきたい。</p>	<p>11 共生社会を担う人材の育成</p> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>○交流及び共同学習という言葉が、保護者にはまだ浸透していないようなので、学校でどのようなことを行っているのか伝えていくとともに、交流することがお互いにとって有益であるということを啓発していきたい。</p>
--	--

3安全で良好な教育環境の整備

①子どもたちの身近な安全対策の充実

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

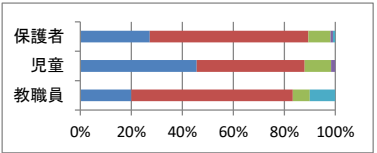


○年間計画に基づいて安全教育を行っているが、十分ではないと感じている保護者・児童がいる。その原因をリサーチするとともに、これまでの地震火災避難訓練や不審者対応訓練、登下校の安全についての指導など、より分かりやすく、効果の高いものになるよう改善していく必要がある。

②最適な学習環境の整備

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

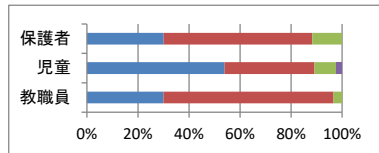


○年間計画に基づいて月一回の教職員による安全点検を行っているが、学校の老朽化に伴った職員だけでは修繕できない施設設備の痛みがみられるところがあり、計画的な修繕を行っていく必要がある。

③家庭・地域社会との連携強化

14 教育方針・目標の理解

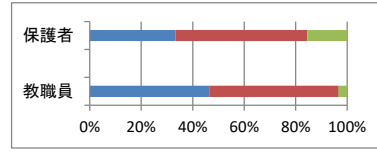
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



○学校便りや学級通信などを活用して、事あるごとに伝えてきた。ただコロナ禍ということもあり、直接、学校の教育方針や目標などを伝える場が少なかった。今後もオンラインを含め、発信の場を増やしていきたい。

15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



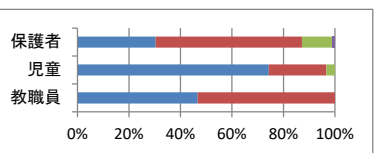
○保護者の中には、「2」の意見も少なからずみられる。地域と連携した活動が多くある中、保護者に伝わっていない点は反省点である。広報に努めていきたい。また、コロナ禍でPTA活動など、非常に難しいときであるが、持続可能な連携の在り方を模索していきたい。

4学校独自項目

本校の教育

16 やさしく

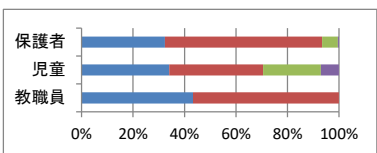
学校は、いじめや差別をゆるさず、友だちと仲良くできる児童を育てていると思いますか。



○保護者、児童とも9割近くが指導や対応に対して肯定的に回答しているが、[2]や[1]もみられる。さらに、一人一人の教育的ニーズに応じた指導のあり方を考えていく必要がある。

17 かしこく

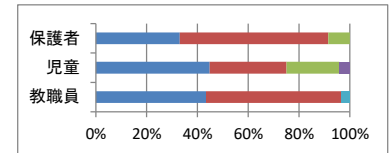
学校は、自分の考えや思いを相手に伝える力を育て、学力の向上を図っていますか。



○児童の中で、3分の1程度が自分の考えや思いを相手に伝えることができていないと感じている。ペアやグループでの話し合いを授業のどのタイミングで行えば効果的であるか研究していく必要がある。また、子どもたちに自分の姿を自覚できるように問いや振り返りを研究していく必要がある。

18 たくましく

学校は、運動する機会を多くつくり、体力の向上を図っていますか。



体力向上に関して、保護者・教職員は9割以上が肯定的に感じている。一方で、十分でないと感じている児童が昨年よりも増加している。児童が楽しみながら、意欲的に運動に参加できる機会を工夫していく必要があると考えられる。

来年度の具体的な取り組みについて

○コロナ禍ということもあり、学校の状況が外部には見えづらいという状況がある。ホームページなどで学校の学習状況を発信していく活動を定期的に行っていく。
 ○児童は8割近くの児童が友達と仲良く過ごしているという満足感を持っているが、そう思わないと答えている児童もいる。児童に寄り添い、何でも言える学校全体の雰囲気づくりに努めるとともに、アンケート及び教育相談などを充実させることにより、いじめや子どもの悩みに対して早期発見早期対応ができる学校を目指す。
 ○コロナ禍の学習活動の在り方は、今後の大きな課題である。特に、オンラインでの活動が多くなっていくことを鑑み、適切な環境づくりとともに、そのような状況に対応できるよう研修を積み重ねていきたい。

学校関係者評価

○コロナのために、不自由な生活を送っているが、家にいる時を退屈と思うのではなく、家だからやれることを見つけて、その時間を楽しんでいる。どうでしょうという提案をして欲しい。そして、それが出来た時、学校での友達関係も充実するのでは...と考える。
 ○教師と保護者、子どもの評価に多少の違いがみられる。子どもや保護者の意見を学校はよく聞いていると思うが、さらに子どもの声をよく聞き、保護者と連携を密にしていくことを願いたい。
 ○コロナ禍で大変な中、多くの行事が行われ子ども達に大切な経験をする機会を与えられていると感じた。本当に現場は想像以上に大変だろう。今後も色々な工夫の中での活動になる事と思う。子ども達の大切な時間が守られて行くよう頑張っていただきたい。
 ○挨拶が出来る、ごめんなさいが出来る、ありがとうが誰にでも言える様な学校になって欲しい。